極早生タマネギのトンネル栽培による3月収穫作型

【背景・目的・成果】
「淡路島たまねぎ」は、早生の新玉に始まり、吊り玉、冷蔵貯蔵による長期出荷を特長としています。しかし、冷蔵品出荷終了の2月以降、5月の新玉シーズンまでの3～4月は出荷の端境期となっています。消費者・実需者からは、淡路産タマネギの周年供給が期待されており、この端境期対策として、トンネルを利用した新作型を開発しました（図2）。
極早生品種「浜笑（はまえみ）」を用い、9月初旬に播種、10月下旬に定植し、12月上旬からトンネル保温することで3月上～中旬の収穫が可能となり、4～4.5t/10aの収量が得られます。

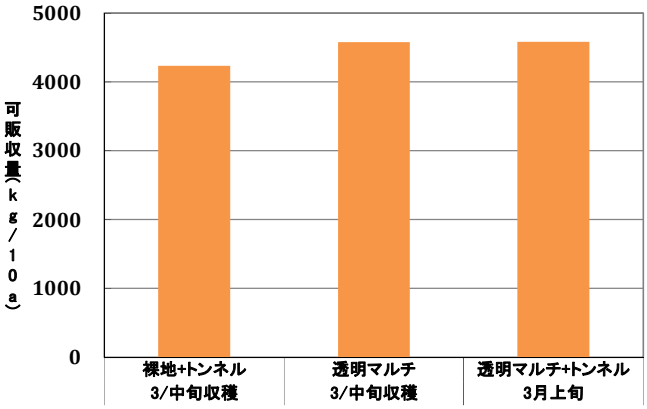

図1　栽培方法別のタマネギ収量（2015年産）

写真1　透明マルチ＋トンネル栽培

新作型の栽培ポイント

・淡路地域慣行の裸地栽培にトンネル被覆した「裸地＋トンネル」では、3月中旬に約4t/10aの収量が得られます。また、地温を上げる効果が高い「透明マルチ」では、同じく3月中旬に収穫ができ、さらにトンネル被覆と組み合わせた「透明マルチ＋トンネル」（写真1）では、3月上旬と最も早く収穫でき、裸地と比べ、より収量が多くなります（図1）。
・施肥は、窒素成分量18kg/10a程度を全量基肥施用し、初中期の生育を旺盛にします。また、透明マルチ栽培では、雑草対策としてキルパー処理することで安定した除草効果が得られます。トラクタアタッチによる同時作業が省力的です（写真2）。

写真2　畝立・施肥・キルパー・マルチ同時作業による作業の省力

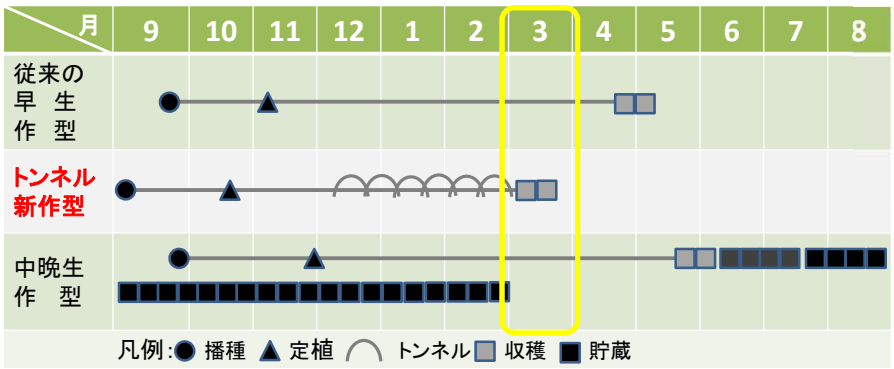

図2　端境期を埋める新作型

【技術の活用】
早期出荷による高単価販売により収益性が期待できるとともに、3～4月の端境期が解消され、淡路産タマネギを周年楽しむことができます。

兵庫県 Hyogo Prefecture
兵庫県立農林水産技術総合センター
淡路農業技術センター